

新潟県がん診療連携協議会

令和 7 年度 第 1 回 情報連携部会

次 第

1. あいさつ

県立がんセンター新潟病院 副院長 竹之内 辰也

2. 協議

1) がん地域連携パスについて

- (1) がん地域連携パスの利用状況について
- (2) 今後の課題等について
- (3) 乳がん地域連携パスの新規利用状況（グラフ）
- (4) 新潟県医師会への案内

資料 2-1

資料 2-2

資料 2-3

資料 2-4

2) がん相談支援センターについて

- (1) 活動報告
- (2) 就労支援に関する取り組みの報告

資料 3-1

資料 3-2

3) P D C A サイクル実施状況の評価について

- (1) 評価一覧
- (2) 評価（グラフ）

資料 4-1

資料 4-2

4) 第 24 回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の報告

資料 5

5) 北関東甲信越地域相談支援フォーラムについて

資料 6

6) 新潟県福祉保健部より情報提供

- (1) 新潟県がん対策推進計画（第 4 次）概要版
- (2) がん患者のアピアランスケアについて
- (3) 小児 AYA 世代がん患者等への妊娠性温存療法等

資料 7-1

資料 7-2

資料 7-3

7) ワーキング活動について

- (1) ワーキンググループ名簿
- (2) 年間活動計画
- (3) 活動計画表書

資料 8-1

資料 8-2

資料 8-3

8) 新潟県がん相談員研修のお知らせ

資料 9

新潟県がん診療連携協議会 情報連携部会員名簿 (R7年度)

資料 1 - 2

施設番号	病院名	氏名	所属	職名
	新潟県福祉保健部	田口 伸一	地域医療政策課	医療企画班政策企画員
		上原 海斗	地域医療政策課	主事
	てらしま外科内科クリニック	寺島 哲郎	新潟市医師会	
	黒条内科・消化器クリニック	大関 康志	長岡市医師会	
	原消化器内科医院	原 秀範	新発田北蒲原医師会	
	内山医院	内山 一晃	上越医師会	
1	県立がんセンター 新潟病院	竹之内 辰也	皮膚科	副院長 患者サポートセンター長
		八幡 貴子	患者サポートセンター	看護師長 副センター長
		伊藤 典子	患者サポートセンター	副看護師長
		菅野 まり子	患者サポートセンター	主査(医療ソーシャルワーカー)
		渡邊 樹	患者サポートセンター	主任(医療ソーシャルワーカー)
		錦織 ゆか子	庶務課	庶務係長
2	新潟大学医歯学 総合病院	渡部 聰	腫瘍センター	部長
		下鳥 由紀	腫瘍センター	看護師長
		山際 直美	腫瘍センター	看護師
		鈴木 梨紗	患者総合サポートセンター	MSW
		深谷 賢志	医事課	専門職員
3	新潟市民病院	坂田 英子	診療部 乳腺外科	医師
4	県立新発田病院	小林 朝美	患者総合支援センター がん診療支援室	医療福祉相談員
		吉田 剛	診療部	診療部長 患者サポートセンター長
		西潟 幸江	患者サポートセンター	副参事 医療ソーシャルワーカー
5	長岡中央総合病院	山田 史子	患者サポートセンター	主任看護師
6	長岡赤十字病院	川原 聖佳子	消化器病センター・外科	外科部長
		金塚 和樹	がん相談支援センター	MSW
7	県立中央病院	石田 晃	呼吸器内科	呼吸器内科部長
		橋本 幸子	がん相談支援センター	看護係長
		宇佐美 靖子	がん相談支援センター	MSW
		青野 高志	診療部	診療部長
		樋口 伸子	患者サポートセンター・がん相談支援センター	副看護師長
8	魚沼基幹病院	小杉伸一	がん相談支援センター	センター長 医師
		泉沢雅子	腫瘍センター	腫瘍センター看護師長
		池田幸恵	がん相談支援センター	看護副部長
		星山祐子	がん相談支援センター	主任医療ソーシャルワーカー
		佐藤芳伸	がん相談支援センター	医療ソーシャルワーカー
		深野光一郎	臨床研究推進部	事務(腫瘍センター事務局)
9	済生会新潟病院	渋川 健史	医療福祉相談室	MSW
10	立川総合病院	吉岡美鈴	看護部	看護師長
		江部涼太	医療相談室	ソーシャルワーカー
11	柏崎総合医療センター	牧口花菜	地域連携支援部	MSW
		横関泰江	看護部 西6階病棟	看護師
12	上越総合病院	利根川典子	患者サポートセンター	看護師長
		齋藤謙	患者サポートセンター	リソーシュワーカー
13	西新潟中央病院	渡辺 健寛	医局	特命副院長 呼吸器部長
		星野 瞳美	看護部	がん性疼痛看護認定看護師
		吉田 大輔	地域医療連携部	医療社会事業専門職
14	佐渡総合病院	荒川 和也	がん相談支援センター	MSW
		濱田 望	がん相談支援センター	事務
		佐久間 祥	地域がん診療病院運営委員会事務局	医事課事務
		山口 剛義	地域がん診療病院運営委員会事務局	医事課主任

【非部会員】
新潟県福祉保健部

石黒 裕二

健康づくり支援課

主任

新潟県がん診療連携協議会
令和7年度 第1回 情報連携部会議事録【要旨】
(令和7年7月14日 開催)

【協議】 1) がん地域連携パスについて

(1) がん地域連携パスの利用状況について 資料2-1

- ・新潟県内で本格稼働している地域連携パスは乳がんのみ（R6年度：1078件）。
- ・胃がんの地域連携パスは済生会新潟病院で稼働中（R6年度：ステージI～III 合計26件）。
- ・大腸がんの地域連携パスは長岡中央病院で稼働中（R6年度：0件 R5年度：2件）

(2) 乳がん地域連携パスの新規利用状況（グラフ） 資料2-3

- ・新規利用件数ではがんセンターが多いが、新潟市民病院も安定した件数で利用している。
- ・新発田病院がこの2～3年で件数が増加傾向。済生会新潟病院も増加。上越総合病院は2023年から連携パスを開始し、昨年は17件と急増している。

(3) 今後の課題 資料2-2

○乳がん地域連携パスの連携医療機関に新規で連携を依頼する場合、FAX送信票（様式1）と診療情報提供書を合わせて送っているか。

- ・がんセンター：FAX送信票（様式1）と診療情報を合わせてFAXしている。
- ・新潟大学病院：一律でFAX送信票（様式1）と診療情報を合わせてFAXしている。
- ・新発田病院：一律でFAX送信票（様式1）と診療情報を合わせてFAXしている。
- ・長岡赤十字病院：診療情報提供書をFAXしている。
- ・長岡中央総合病院：FAX送信票（様式1）と診療情報を合わせてFAXしている。
- ・県立中央病院：連携先に連携依頼の一報をした後、FAX送信票（様式1）のみFAX実施。実際に連携受診開始の時点で診療情報提供書等を郵送する。
- ・済生会新潟病院：診療情報をFAXしている。
- ・上越総合病院：初めて連携する医療機関には連絡をいれており、連携実績のある医療機関には連絡はせずFAXしている。
- ・新潟市民病院：連携パスマニュアルでは、様式1と診療情報提供書をFAXするとなっているが、当院は様式1をFAXし引き受け可能となれば診療情報をFAXする。しかし連携医療機関により、様式1と合わせて診療情報提供書のFAX希望がある。

【結果】

- ・医療機関毎に連携医療機関宛ての依頼方法が異なっている。希望のある連携医療機関に対しては、様式1と診療情報提供書を合わせてFAXする方法で統一する。今後は類似する問題が生じた場合は情報連携部会で隨時検討する。

(4) 新潟県医師会への案内 資料2-4

- ・乳がん地域連携パスの理念は、定期検査とホルモン療法薬の処方だけとなれば、診療科を問わず、かかりつけの内科医を含めた医療機関で経過を見て頂くというものである。また全患者を乳腺クリニックに依頼するわけにはいかないという点からも、乳がん患者の経過観察に於いては、地域の医療機関の協力が不可欠となる。昨年12月の新潟県医師会報に地域連携パスの協力を目

的に資料2-4のとおり記事の掲載を依頼した。記事の趣旨は理解頂けたと考えている。引き続き、連携医療機関の新規開拓に努めて頂きたい。

【協議2】2) がん相談支援センターについて 資料3-1、3-2

- ・各病院から資料に基づき活動報告を受ける。詳細は議事録参照。
- ・各病院からの質問事項に対する回答（件数）

〈図書館の利用件数を増やす為の取り組みについて〉

- ・図書館の広報誌を院内に設置（1）
- ・病院HPによる周知（2）
- ・蔵書がネット検索できる（1）
- ・図書室の案内を入院のしおりに掲載（1）
- ・院内に図書館のポスターを掲示（1）
- ・国立がん研究センターのがん情報ギフト「結ぶ」事業で南魚沼市の市立図書館と連携（1）
- ・図書館はないが、図書コーナーに図書を置いている（2）
- ・利用件数が年間を通して10件未満で少ない（1）
- ・図書室はコロナ禍以後、休止中（1）
- ・図書館は利用者がなく閉鎖となった（1）
- ・図書室は設置していない（3）

〈がんサロンについて、またファシリテーションで工夫している点〉

- ・参加人数が集まらない（3）
- ・サロンは休止中（4）
- ・集客目的にミニ講座とサロンを合わせて開催している（3）
- ・人の話を否定しない、守秘義務を守るルールをお願いしている
- ・見守りとして職員が1名つく
- ・営利目的禁止
- ・不適切な発言時は個別で患者に説明している
- ・思想的、宗教的、政治的、代替療法、民間両方、健康食品等の営業はしない。「私はこうでした」とのスタンスで話をお願いしている
- ・フリートークのため、共通の話題を広げるという点に苦慮している
- ・サロン休止中の代替手段として動画配信を行っている。
- ・ルール説明後にサロンを開始する

〈相談実績のカウント方法について〉

- ・ハローワーク及び産保センターと面談に至ったケースのみカウントとしている。
- ・病院によりカウント方法が、実人数と述べ人数の所がある

〈デジタルサイネージについて〉

- ・サイネージを利用し（がん）相談支援センター関連の案内している（6）
- ・サイネージはあるが、（がん）相談支援センターの案内はしていない（3）
- ・サイネージを設置していない（2）

〈オンライン面談について〉

- ・ハローワーク、産保センターとの面談にオンライン面談を活用している病院(4)
- ・オンライン面談は実施していない(6)
- ・患者、家族との面談にオンラインを活用している(1)

【協議3】PDCAサイクル実施状況の評価について 資料4-1、4-2

- ・資料4-2参照
- ・評価方法：十分できている：3　　ある程度できている：2　　できていない：1
- ・準拠点の病院には実施困難な項目があるため、評価に「1」が出るのはやむを得ない。
- ・評価「2・3」に関しては、なるべく「1」を減らしていく事が部会の目標と思われる。
- ・「10：必ず一度は相談を利用する案内」について。各病院から報告のあったデジタルサイネージ、リーフレット等の活用が考えられる
- ・「新6：ピアサポート支援」について。患者会やサロンが該当する。苦戦している病院が多い。
- ・「36：個人情報取り扱いマニュアルの更新」について。評価「1」で回答した病院が多い。
- ・「新11：相談に関する院外協力体制」について。自院で対応できない癌種の場合、院外との協力体制が作られているか。これが非常に「1」が多い。
- ・「41：モニタリング」についても「1」が多い。自院の体制が充実していないと難しい。
- ・今後は「1」が多い項目について、ワーキンググループでテーマにすると良いと思われる。

【協議4】第24回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の報告 資料5

- ・資料5の「資料掲載ページ」のURLから第24回情報提供・相談支援部会 資料3を参照のこと
- ・情報提供・相談支援部会（以下、部会）は拠点病院で実施される情報提供及び相談支援体制の技能強化と質向上を目的としており、各都道府県や地域単位の取り組みを支援する位置づけである。
- ・部会は部会要綱2条(1)～(3)の事項について、情報を共有・検討する役割があり、あるべき姿を共有しながら社会ニーズに答え、現場が抱える問題・課題を論理的に考える為にロジックモデルを活用し活動計画を検討していく。
- ・相談記入シートカウントルールについて。2025年の相談件数の集計方法に関するアンケート結果から、今後は運営委員会による相談記入シートの入力目的、集計及び報告意義の明文化と解説を充実した更新版の作成予定が示された。

【協議5】北関東甲信越地域相談支援フォーラムについて 資料6

- ・昨年、R6年度 北関東甲信越地域相談支援フォーラムin長野県が開催された。
- ・テーマは『がん相談員として、言葉に向き合い、言葉を紡ぐ、言葉の力を信じて、この時を寄り添うために』。
- ・講演は愛媛県 石川記念会HITO病院 緩和ケア内科 大坂巖医師。演題は「がん相談員が処方する言葉の薬」。講演後は各県の代表からシンポジウム発表があり、新潟県からはがんセンター新潟病院 患者サポートセンター 澤田看護師より発表を行った。
- ・今年度の当番県は群馬県。新潟県のシンポジスト担当病院は新潟市民病院。フォーラムの日程及びテーマについては現時点で未定。今後、フォーラムの日程とテーマが決まり次第、メーリングリストで情報共有予定。

【協議 6】新潟県福祉保健部より情報提供 資料7

- ・新潟県がん対策推進計画が第4次計画として新たに作成された。内容は国のがん対策推進基本計画の改定を受け、新潟県版としてアップデートしたものとなる。従来の計画と大きく変更点は無いが、国の計画を踏まえ、がん予防、がん医療、がんとの共生をがん対策として推進する。
- ・がんサポートハンドブックは冊子による配布、新潟県のホームページ等で周知等を行っている。今年度も協力をお願いしたい。
- ・新潟県では昨年度から新たに医療用補正具助成事業を始める市町村に助成金事業を開始した。
- ・新潟県のホームページにある「健康にいがた21」では県内の医療用補整具助成事業の実施市町村一覧が閲覧可能。各市町村の助成制度のページとリンクしている。
- ・今後は助成を実施していない市町村に対し助成開始に向けた働きかけを行っていきたい。
- ・化粧品会社による外見ケアセミナーや美容師との連携といった、インフォーマルな地域資源の活用について、県としても支援を検討していく。
- ・令和3年度から小児・AYA世代のがん患者の妊娠性温存療法の費用の一部助成事業を行っているが、ニーズが増加している。患者への周知に資料7-3の活用をお願いしたい。
- ・小児・AYA世代の挙児を希望するがん患者に対し、新潟県がん生殖医療ネットワークとして、患者への情報提供、及び医療機関の間での患者紹介、情報共有を行っている。ネットワークの概要は県のホームページで案内をしている。挙児を希望する患者に県ホームページの案内とがんの治療開始前の妊娠性温存実施医療機関への紹介を願いしたい。

【協議】7) ワーキング活動について 資料8

- ・今年度のワーキング活動は、患者向けのがん相談支援センタ一周知動画作成グループ、昨年度のワーキング活動で集約したアピアランスケア情報とダヴィンチの実績に関する情報更新グループ、ピアサポートに関する情報収集グループとなる。
- ・3つの課題にフォーカスした理由は、PDCAチェックリストにおいて課題とされていたため。
- ・今後のワーキング活動の予定は資料8-2の通り。
- ・ワーキングの結果は進捗状況により1月下旬の第2回情報連携部会（書面開催）か令和8年度の第1回情報連携部会の報告となる。

【協議】8) 新潟県がん相談員研修のお知らせ 資料9

- ・今年度のテーマ：「情報から始まるがん相談支援～地域展開版@にいがた～」
- ・開催日時：令和7年11月1日（土）午前の9時～13時。
- ・開催形式／対象者：ZOOMによるオンライン／新潟県内のがん診療連携拠点病院、準拠点病院、地域がん診療病院の相談担当者（20名程度）
- ・講師：公立那賀病院（和歌山県）星野様（社会福祉士）
- ・詳細確定後、情報連携部会のメーリングリストで案内予定

【まとめ、閉会の挨拶】

○ご多忙の中、長時間の参加協力をありがとうございました。有意義な意見交換の機会となりました。課題が多過ぎる現況から、本会議は報告会に留まりがちですが、その点を補うためワーキンググループを開催頂いている。実務等に関する具体的な課題等について情報交換を行ってもらいたい。

なお、新潟県がん診療連携協議会の部会は5部会あり、それらを集約した形の新潟県がん診療連携協議会を県の親睦会として、11月にがんセンターで開催している。その活動記録、議事録や新潟県の拠点病院の活動一覧は、がんセンターのホームページに掲載している。がんセンターのHPから「新潟県がん診療」と検索、又は新潟県福祉保健部のがん対策ページのリンクからぜひ一度ご覧いただければと思います。

胃がんステージ I

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	2023年度
がんセンター													0	0
新潟大学													0	0
新潟市民													0	0
県立新発田													0	0
長岡赤十字													0	0
長岡中央													0	0
県立中央													0	0
済生会新潟	1	2	2	2	1	0	2	3	2	3	1	1	20	19
魚沼基幹													0	0
立川総合													0	0
柏崎総合													0	0
上越総合													0	0
西新潟中央													0	0
佐渡総合病院													0	0
計	1	2	2	2	1	0	2	3	2	3	1	1	20	19

胃がんステージ II・III

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	2023年度
がんセンター													0	0
新潟大学													0	0
新潟市民													0	0
県立新発田													0	0
長岡赤十字													0	0
長岡中央													0	0
県立中央													0	0
済生会新潟	1	0	0	0	1	0	0	0	1	2	0	1	6	3
魚沼基幹													0	0
立川総合													0	0
柏崎総合													0	0
上越総合													0	0
西新潟中央													0	0
佐渡総合病院													0	0
計	1	0	0	0	1	0	0	0	1	2	0	1	6	3

胃がん ESD

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	2023年度
がんセンター													0	0
新潟大学													0	0
新潟市民													0	0
県立新発田													0	0
長岡赤十字													0	0
長岡中央													0	0
県立中央													0	0
済生会新潟													0	0
魚沼基幹													0	0
立川総合													0	0
柏崎総合													0	0
上越総合													0	0
西新潟中央													0	0
佐渡総合病院													0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大腸がん

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	2023年度
がんセンター													0	0
新潟大学													0	0
新潟市民													0	0
県立新発田													0	0
長岡赤十字													0	0
長岡中央													0	2
県立中央													0	0
済生会新潟													0	0
魚沼基幹													0	0
立川総合													0	0
柏崎総合													0	0
上越総合													0	0
西新潟中央													0	0

佐渡総合病院												0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

乳がん

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	2023年度
がんセンター	26	25	23	26	23	22	27	23	27	25	24	22	293	336
新潟大学	8	9	7	8	9	7	12	13	8	8	6	19	114	104
新潟市民	18	21	16	18	22	20	18	21	23	14	18	17	226	224
県立新発田	10	9	6	8	12	9	11	11	10	10	9	8	113	110
長岡赤十字	8	9	9	7	4	8	7	6	6	5	5	4	78	119
長岡中央	4	3	7	6	4	5	5	7	7	7	7	6	68	60
県立中央	11	10	6	5	9	8	7	9	10	6	11	11	103	110
済生会新潟	8	5	3	5	3	6	5	4	10	8	5	4	66	38
魚沼基幹													0	0
立川総合													0	0
柏崎総合													0	0
上越総合	4	1	2	3	1	3	2	1	0	0	0	0	17	4
西新潟中央													0	0
佐渡総合病院													0	0
計	97	92	79	86	87	88	94	95	101	83	85	91	1078	1105

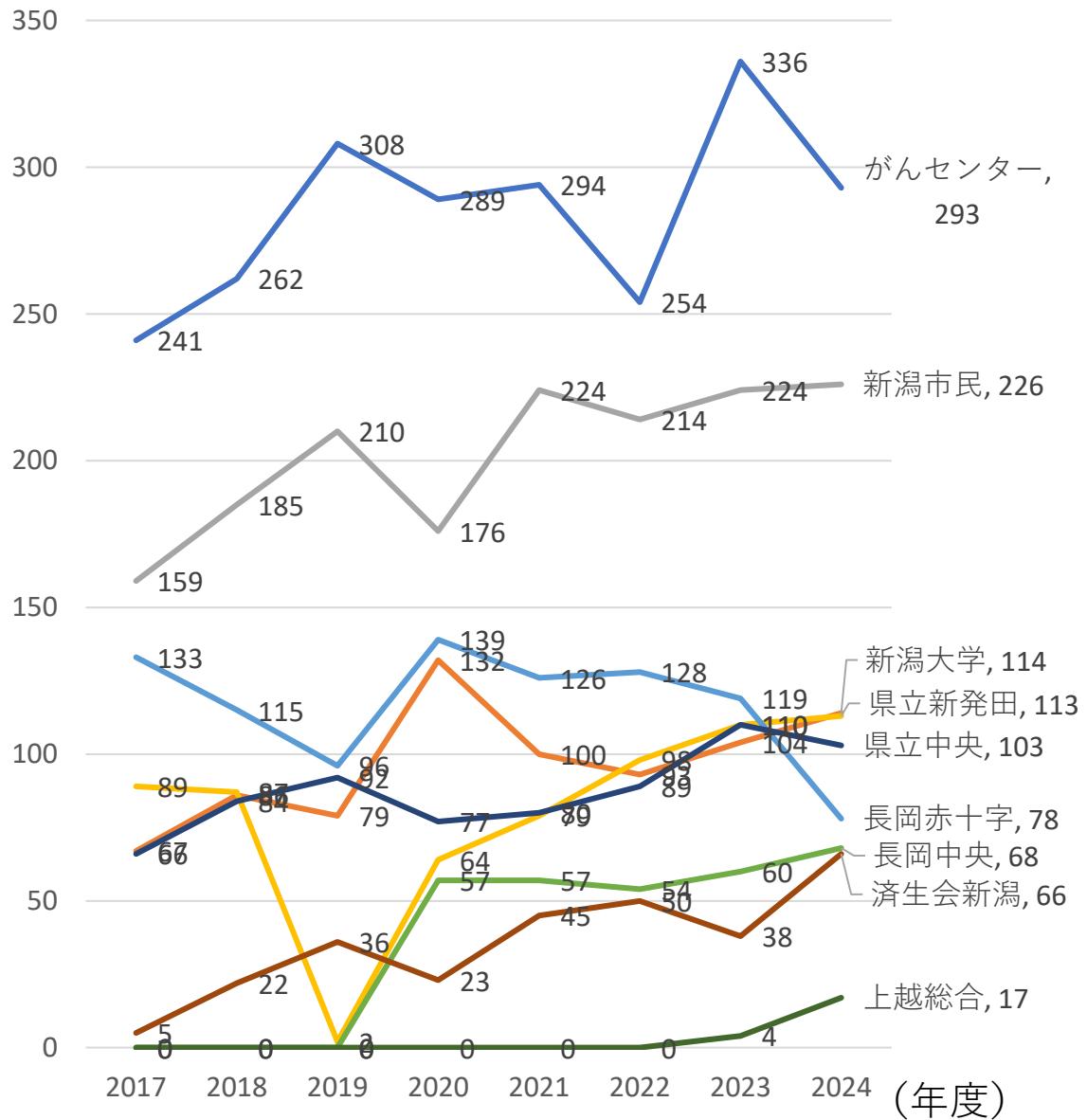
肺がん

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	2023年度
がんセンター													0	0
新潟大学													0	0
新潟市民													0	0
県立新発田													0	0
長岡赤十字													0	0
長岡中央													0	0
県立中央													0	0
済生会新潟													0	0
魚沼基幹													0	0
立川総合													0	0
柏崎総合													0	0
上越総合													0	0
西新潟中央													0	0
佐渡総合病院													0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

肝がん

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	2023年度
がんセンター													0	0
新潟大学													0	0
新潟市民													0	0
県立新発田													0	0
長岡赤十字													0	0
長岡中央													0	0
県立中央													0	0
済生会新潟													0	0
魚沼基幹													0	0
立川総合													0	0
柏崎総合													0	0
上越総合													0	0
西新潟中央													0	0
佐渡総合病院													0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

乳がん地域連携バスの新規利用状況



実態調査② がん相談支援センター

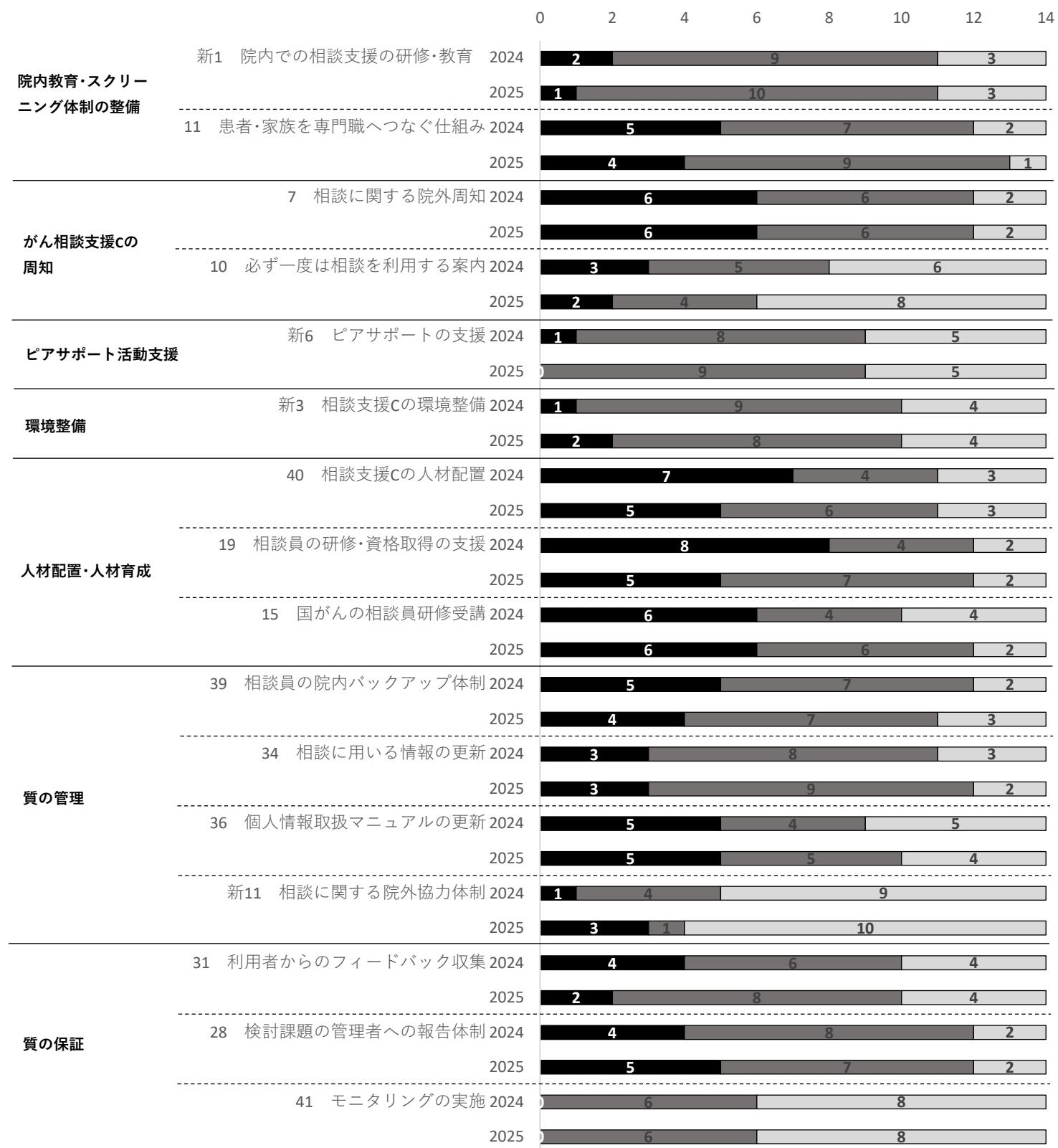
病院名	1. ハローワークとの連携について					2. 産業保健総合支援センターとの連携による仕事と治療の両立支援について				
	①実施状況			②相談実績		①実施状況			②両立支援促進員介入件数	
	ハローワークの定期出張相談	実施状況	相談件数	就労に繋がった件数						
県立がんセンター新潟病院	あり	・毎週木曜日10時～15時実施。予約制で実施 ・外来患者へのリーフレット配布、院内のポスター掲示、病院HPへの掲載を行い、就労支援について周知を図っている。 ・院内スタッフに研修(YouTube視聴)により就労支援を周知している。	R5 R6 R7	16件 4件 0件	5件 0件 0件	・両立支援促進員との面談は、患者の希望に応じて随時行う形となっている。患者への情報提供はハローワークと同様の形で行っている。 ・昨年度、産業保健総合支援センターと連携した事例は4件。勤務情報提供書にもとづく主治医意見書の作成は2件あり、2件とも治療・就労両立支援指導料を算定した。			R5 R6 R7	0件 4件 0件
県立新発田病院	あり	毎月 第2・4火曜日(13:30～15:30)	R5 R6 R7	17件 17件 2件	4件 1件 0件	必要に応じて出張面談の調整をするが令和6年度は介入依頼なし。			R5 R6 R7	2件 0件 0件
新潟市民病院	あり	<実施状況> ・毎月2回(第2水曜日、第4火曜日13:00～16:00)出張相談を実施。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、これまで上記日時・時間帯に就職支援ナビゲーターに来院・在室していただいているところを、出張相談予約が入った日時ののみの来院・在室としている。	R5 R6 R7	13件 5件 4件	2件 1件 0件	・患者さんからの希望に応じ、随時日程調整の上、出張相談を実施している。			R5 R6 R7	0件 0件 1件
新潟大学医歯学総合病院	なし	<実施状況> 特定の出張日は設けていません。希望時に出張相談の調整を行います。センターを通さずに直接ハローワークに出向いて就労支援を受けられている方もいらっしゃると思われます。	R5 R6 R7	2件 1件 1件	0件 0件 0件	特定の出張日は設けていません。希望時に出張相談の調整を行います。			R5 R6 R7	4件 2件 0件
済生会新潟病院	あり	<実施状況> ・毎月第3金曜日14時～15時、要予約制。	R5 R6 R7	1件 0件 0件	0件 0件 0件	必要時随時調整。			R5 R6 R7	0件 0件 0件
長岡赤十字病院	あり	<実施状況> ・第1(水)、第3(金)に定期相談を実施し、随時リモート相談も実施している。	R5 R6 R7	22件 22件 9件	7件 6件 1件	相談を受け、依頼が必要と判断した時に随時連携している。			R5 R6 R7	3件 1件 0件
長岡中央総合病院	あり	<実施状況> ・定期出張相談 毎月第2金曜日と第4火曜日 13:30～15:30 予約制 ・オンライン相談 患者さんの都合、通院に合わせて適宜実施	R5 R6 R7	0件 11件 2件	0件 3件 0件	必要時に適宜調整			R5 R6 R7	1件 0件 0件
県立中央病院	あり	<実施状況> ・相談者より就労相談があつた際、相談者の同意を得た上でハローワーク担当者と面談日程調節、初回面談時のみ医療相談員が同席。	R5 R6 R7	2件 2件 0件	2件 0件 0件	・相談者より就労相談があつた際、相談者の同意を得た上で産保担当者と面談日程調整、初回面談時のみ医療相談員が同席。			R5 R6 R7	0件 0件 0件
魚沼基幹病院	なし	<実施状況> 相談希望がある患者がおられた時には、患者からのご了解をいただきハローワークへ病院から連絡を取った後に、患者さん自身でハローワークへ足を運んでいただいている。	R5 R6 R7	0件 2件 0件	0件 0件 0件	患者相談の中で、随時情報提供している。 その中で患者から了解が得られれば、さんぽセンターへ連絡相談し協働して支援している。 近年では殆どZOOMでの面談となっている。			R5 R6 R7	1件 3件 0件
西新潟中央病院	なし		R5 R6 R7	0件 0件 0件	0件 0件 0件				R5 R6 R7	0件 0件 0件
立川綜合病院	なし	<実施状況> ・相談実績はなし。必要時は連携を図っていきたい。	R5 R6 R7	0件 0件 0件	0件 0件 0件	必要時に産業保健総合支援センター担当者と連絡を取り、介入をお願いしている。			R5 R6 R7	0件 0件 0件
柏崎総合医療センター	なし		R5 R6 R7	0件 0件 0件	0件 0件 0件	入院患者、外来患者に対して相談があればMSWが対応し、紹介することもある。			R5 R6 R7	0件 0件 0件
上越総合病院	あり	<実施状況> 毎月第3水曜日13:00～15:00(予約制)	R5 R6 R7	2件 0件 0件	0件 0件 0件	なし			R5 R6 R7	0件 0件 0件
佐渡総合病院	なし	・実施なし	R5 R6 R7	1件 0件 0件	0件 0件 0件	患者さんの希望に応じて適宜相談・連携しています。			R5 R6 R7	0件 0件 2件

新潟県 がん相談支援センターPDCA実施状況チェックリストの評価（令和7年）

	がんセ ンター	新発田	新潟市 民	新潟大 学	済生会 新潟	長岡赤 十字	長岡中 央	県立中 央	魚沼基 幹	西新潟	立川総 合	柏崎総 合	上越総 合	佐渡総 合	
1. 病院全体として、患者や家族等の不安に適切に対応できる体制を整備する															
新1	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、院内スタッフに対し、以下の内容について学ぶ機会を年1回以上提供している。	2	2	1	2	1	2	2	2	3	2	2	2	1	2
11	・がん対策の目的や意義 ・がんの療養過程で患者や家族に起こりうる困りごとや課題 ・患者や家族が利用できる制度や関係機関との連携体制 ・自施設で提供している診療・患者支援の体制 ・がん相談支援センターの役割や業務（がん相談支援の基本姿勢「Core Values」を含む）														
11	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、苦痛や課題を抱えている患者・家族を把握し、適切な部門・専門職につなぐための院内体制を整備している。 (例) 初診時や入退院時にスクリーニングを行い、苦痛や課題の内容に応じて適切な部門・専門職につなぐしくみがある等	3	2	2	3	2	2	2	2	3	3	2	1	2	2
7	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、以下の情報が患者・家族・市民に伝わるよう、対外的に明示するとともに、院内スタッフや地域の関係機関に対しても周知している。 ・自施設の患者以外の相談者にも対応していること ・相談は無料であること ・匿名での相談も可能であること ・本人の同意のないところで、相談内容が第三者（担当医含む）に伝わることがないこと ・整備指針に関するQ & A（2022年9月22日発事務連絡）で「がん相談支援センターの業務」として示されている相談内容に対応していること	3	2	3	3	1	2	3	3	3	2	1	2	2	2
10	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、がん患者・家族に対し、外来初診時から治療開始までを目処に、必ず一度はがん相談支援センターを案内するよう院内体制を整備している。 (例) リーフレットや案内カードを渡しセンターを案内するよう、各診療科長を通じて全てのがん診療を担当する医師に依頼する等	3	1	1	3	1	2	1	2	2	1	1	1	1	2
新6	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、行政や都道府県協議会と協働し、ピアサポート（患者サロン・患者会・ピアサポートー等）活動への支援を行っている。 (例) ・ピアサポートの場づくりへの支援（運営支援にあたる人材の確保、周知広報） ・ピアサポートー養成への協力（講師派遣） ・ピアサポートについて情報提供できる体制の整備	2	1	2	2	1	2	2	2	2	1	1	1	2	2
2. がん相談支援センターとして、質の高い相談支援を提供できる体制を整備する															
新3	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、相談支援センターの運営上必要となる環境や資材の整備に取り組んでいる。 (例) ・相談室、相談専用電話、オンライン環境 ・患者向け診療ガイドラインの解説などの書籍 ・相談対応モニタリングを実施するための録音環境等	3	1	2	2	3	2	2	2	2	2	1	1	1	2
40	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、がん相談支援センターの専従・専任相談員として複数の職種（看護職・福祉職・心理職等）を配置している。	3	3	1	3	3	2	2	2	3	1	1	2	2	2

19	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、継続的な学習の機会を業務の一環とみなし、研修参加や各種認定資格（※）取得を積極的に支援している。（参加・取得の奨励、必要経費の支出し、不在時職務代替者の調整等）（※例）がん看護専門看護師、認定看護師、認定医療ソーシャルワーカー、認定がん専門相談員等	3	2	2	3	3	2	3	2	3	2	1	1
15	相談員は、国立がん研究センターや地域開催の相談員研修を定期的に受講し、知識や情報を更新している。	3	2	3	3	3	2	2	2	3	2	1	1
39	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、がん相談支援センターの相談員をバックアップするための多職種連携・協働体制を整備している。 (例) ・相談員が相談対応で困ったときに助言を求められる担当者を定めるよう各診療科・部門に指示する ・がん相談支援センターの業務関連で発生する事務を担当する者を、専従・専任相談員とは別に配置する等	3	2	1	2	3	2	2	3	3	2	1	1
34	相談員は、相談支援に活用する情報の検討・評価を、がん相談支援センター内で定期的に行い、確かな情報を提供できる体制を整えている。 (例) ・相談対応時に活用する情報や情報源のほか、図書、小冊子、リーフレットについても、 がん相談支援センター内で内容を精査・評価する ・がん相談支援センター内で検討・承認された情報を活用して、相談対応する	3	2	2	2	2	2	2	3	2	3	2	1
36	相談員は、個人情報の取り扱い（守秘義務・相談記録管理等）や相談員の役割・業務についてまとめたがん相談部門のマニュアルを作成し、相談員教育に活用するとともに、年1回以上の頻度で更新している。	3	3	3	3	2	2	2	3	2	1	1	1
新11	相談員は、症例が少なく知識・対応経験が蓄積されにくい相談（※）について、都道府県協議会や相談支援部会等の場で課題を協議し、協力体制の構築（病院間での役割分担や連携を含む）を行っている。 ※例）小児・AYA、妊娠性、希少がん、ゲノム医療に関する相談等	1	1	1	3	1	1	1	3	3	1	1	1
31	病院管理者やがん相談支援センター管理者は、がん相談支援センターで提供された支援に対する利用者からのフィードバックを得るための体制を整備している。 (例) センター利用者への満足度調査の実施、病院として実施する患者満足度調査にがん相談支援センターの評価を含める等	3	2	2	3	2	2	2	2	2	1	1	1
28	相談員は、がん相談支援センター内で検討された課題や解決策を、必要に応じて病院管理者等に報告し、がん相談支援センターや病院全体としての質向上につなげている。	3	2	2	3	2	3	2	2	3	3	1	1
41	相談員は、がん相談支援センター内での定期的な相談対応モニタリングを通じて、課題共有と解決策の検討を行っている。 また、モニタリングの際は、がん相談対応評価表、録音した相談対応の音声を用いている。	2	1	1	2	1	1	1	2	2	2	1	1

PDCA チェックリスト



■3 十分できている ■2 ある程度できている □1 できていない

がん患者のアピアランスケアについて

アピアランスケアとは

アピアランスケアとは、一般的には「医学的・整容的・心理社会的支援を用いて、外見（アピアランス）の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケア」と定義されています。

※アピアランスケアに関する詳しい情報は下記ホームページを参照

[国立がん研究センター中央病院アピアランス支援センターホームページ](#)

近年、がん医療の進歩によって治療を継続しながら社会生活を送るがん患者が増加し、アピアランスケアの重要性が高まっていることから、県は令和6年度より、がん患者の経済的・精神的な負担の軽減を図るために、新たに医療用補整具購入費用の助成事業を実施する市町村への支援を開始します。

新潟県がん患者医療用補整具助成事業について

本事業は、市町村が実施する以下の事業に対する支援となります。

詳細は市町村によって異なる場合もありますので、お住まいの市町村へお問い合わせください。

1. 助成対象者

以下の要件を全て満たす方が対象となります。

- (1) 新潟県内に住所を有する方
- (2) がんと診断され、がんの治療（手術、薬物療法、放射線療法等）を受けた方又は現に受けている方であって、補整具を購入した方
- (3) 申請を行う補整具について、他の補助金等を受けていない方

2. 助成の対象となる補整具

(1) 医療用ウイッグ

・がん治療に伴う脱毛に対応するため、一時的に着用する医療用のもの（毛付き帽子、医療用帽子、装着時に皮膚を保護するネットを含む。）

(2) 乳房補整具

・外科的治療等による乳房の形の変化に対応するための補整下着（下着とともに使用するパッドを含む。）

・人工乳房（乳房再建手術によって体内に埋め込まれたものを除く。）

3. 申請について

助成の申請窓口はお住まいの市町村となります。

申請のための書類等は、お住まいの市町村へお問い合わせください。

実施市町村の状況（令和7年5月30日現在 ※順次更新予定）

市町村名をクリックすると、その市町村が実施する助成事業のページへリンクします。

※掲載がない市町村の実施状況や実施予定については、お住まいの市町村へお問い合わせください。

がん患者医療用補整具助成事業 市町村問い合わせ先一覧

市町村	担当課	電話番号
新潟市	保健所健康増進課	025-212-8162
長岡市	保健医療課	0258-39-2383
三条市	健康づくり課	0256-34-5443
柏崎市	健康推進課	0257-20-4211
新発田市	健康推進課	0254-28-9212
小千谷市	健康・子育て応援課	0258-83-3640
加茂市	健康福祉課	0256-52-0080
十日町市	健康づくり推進課	025-757-9764
見附市	健康福祉課	0258-61-1370
村上市	保健医療課	0254-53-2111
燕市	健康づくり課	0256-77-8182
糸魚川市	健康増進課	025-552-1511
妙高市	健康保険課	0255-74-0013
五泉市	健康福祉課	0250-43-3911

市町村	担当課	電話番号
上越市	健康づくり推進課	025-520-5712
阿賀野市	健康推進課	0250-61-2474
佐渡市	健康医療対策課	0259-63-3115
魚沼市	健康増進課	025-792-9763
南魚沼市	保健課	025-773-6811
胎内市	健康づくり課	0254-44-8680
聖籠町	保健福祉課	0254-27-6511
弥彦村	健康推進課	0256-94-3139
阿賀町	こども・健康推進課	0254-92-5762
湯沢町	健康増進課	025-784-3149
津南町	福祉保健課	025-765-3114

その他

がん相談支援センターについて

県内のがん診療連携拠点病院等に設置されている「がん相談支援センター」では、がんの診断・治療に関することや、療養生活に関することなど、がんに関する様々な相談を受けることができます。

また、地域の医療機関や療養支援施設の情報のほか、アピアランスケアを含む助成制度に関する情報など、がんに関する各種情報提供も行っています。

[がん相談支援センターにご相談ください。（新潟県地域医療政策課ホームページ）](#)

健康づくり支援課 成人保健係

住所：950-8570 新潟市中央区新光町4番地1
電話：025-280-5199 ファクシミリ：025-285-8757

いいね！ シェアする ポスト

更新日：2024年06月13日

新潟県にお住まいのがん等の患者さんへ

にんようせい

妊孕性温存療法・温存後生殖補助医療の費用助成のご案内

がんなどの治療により、卵巣、精巣等の機能が影響を受け、妊孕性（妊娠するための力）が低下することがあります。

新潟県では、将来子どもを産み育てることを望む小児・AYA（思春期・若年成人）世代のがん患者さんが希望を持ってがん治療に取り組めるように、妊孕性温存療法及び妊孕性温存療法で凍結した卵や精子等を用いた温存後生殖補助医療に要する費用の一部を助成しています。

1 助成の対象となる方 ※①～⑥のすべてに該当する方が対象となります。

- ① 申請日において新潟県内に住所を有する方
- ② 妊孕性温存療法…温存治療の凍結保存時における年齢が43歳未満の方
温存後生殖補助医療…温存後生殖補助医療の治療期間初日における妻の年齢が原則43歳未満の夫婦
- ③ 下記 2 に示すいずれかの原疾患の治療を受けられる方
- ④ 指定医療機関の生殖医療を専門とする医師及び原疾患担当医師により、妊孕性温存療法又は温存後生殖補助医療に伴う影響について評価を行い、生命予後に与える影響が許容されると認められる方
- ⑤ 妊孕性温存療法又は温存後生殖補助医療を受けること及び研究への参加協力への同意をいただける方
- ⑥ 助成対象となる費用について、他制度の助成を受けていない方

2 助成の対象となる疾患

- ア) 「小児・AYA世代がん患者等の妊孕性温存に関する治療ガイドライン」（日本癌治療学会）の妊孕性低下リスク分類に示された治療
- イ) 長期間の治療によって卵巣予備能の低下が想定されるがん疾患（乳がん（ホルモン療法）等）
- ウ) 造血幹細胞移植が実施される非がん疾患
(再生不良性貧血、遺伝性骨髄不全症候群(ファンコニ貧血等)、原発性免疫不全症候群、先天代謝異常症、サラセミア、鎌状赤血球症、慢性活動性EBウイルス感染症等)
- エ) アルキル化剤が投与される非がん疾患
(全身性エリテマトーデス、ループス腎炎、多発性筋炎・皮膚筋炎、ベーチェット病等)

3 助成の対象となる治療と助成回数及び助成上限額

妊孕性温存療法

【回数】

通算2回まで

※新潟県以外の都道府県で妊孕性温存療法の治療費助成を受けた場合も含みます

【上限額】

対象となる治療	助成上限額／回
ア 受精卵凍結に係る治療	35万円
イ 卵子凍結に係る治療	20万円
ウ 卵巣組織凍結に係る治療(組織の再移植を含む)	40万円
エ 精子凍結に係る治療	2万5千円
オ 精巣内精子採取術による精子凍結に係る治療	35万円

温存後生殖補助医療

【回数】

通算6回（40歳以上43歳未満は通算3回）まで

※新潟県以外の都道府県で温存後生殖補助医療の治療費助成を受けた場合も含みます

【上限額】

対象となる治療	助成上限額／回
カ アで凍結した受精卵を用いた生殖補助医療	10万円
キ イで凍結した卵子を用いた生殖補助医療	25万円※1
ク ウで凍結した卵巣組織再移植後の生殖補助医療	30万円※1~4
ケ エ及びオで凍結した精子を用いた生殖補助医療	30万円※1~4

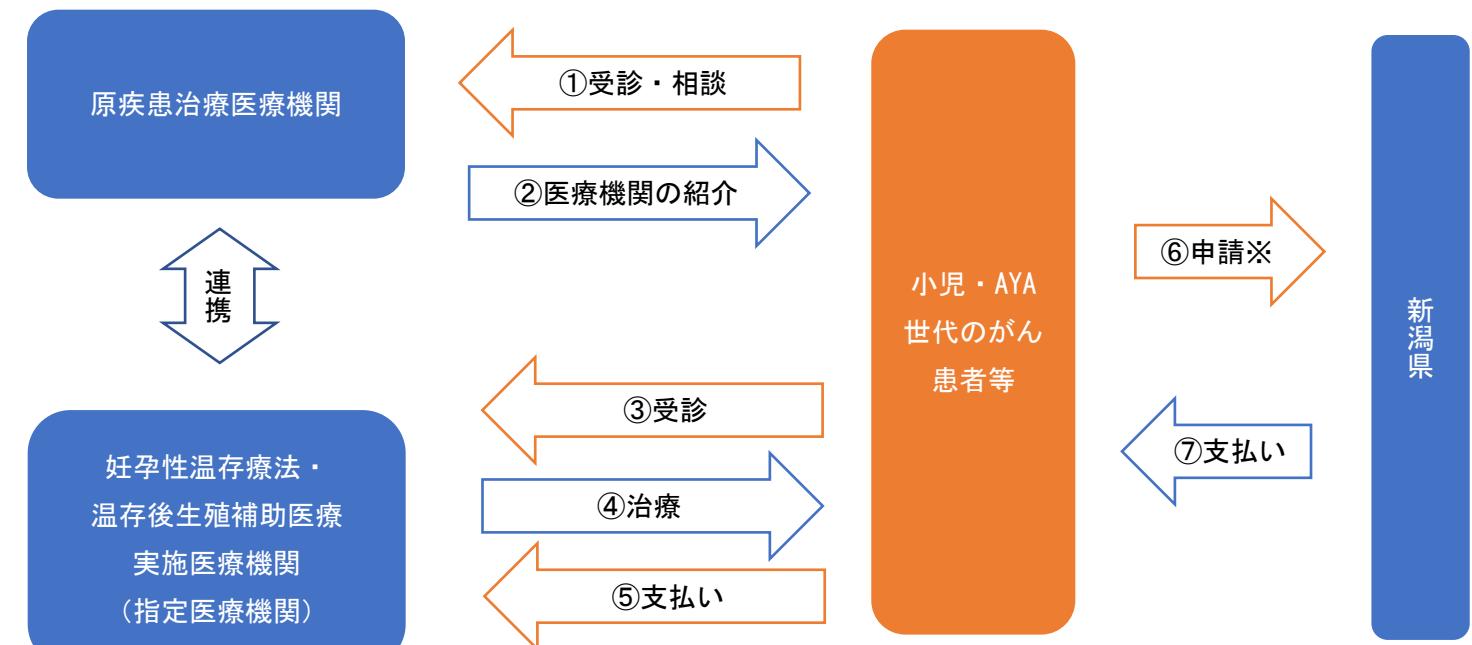
※1 以前に凍結した胚を解凍し胚移植を実施：10万円

※2 人工授精を実施：1万円

※3 排卵したが卵が得られない又は状態の良い卵が得られないため中止：10万円

※4 卵胞が発達しない又は排卵終了のため中止した場合及び排卵準備中、体調不良等により治療中止：対象外

4 申請の流れ



※申請期限: 医療費を支払った日の属する年度の末日まで

5 申請に必要な書類

妊娠性温存療法

- (1)助成事業参加申請書
- (2)妊娠性温存療法実施医療機関が発行する証明書
- (3)原疾患治療実施医療機関が発行する証明書
- (4)夫婦であることを証明できる書類（胚凍結の場合）
- (5)住民票の写し（原本）
- (6)妊娠性温存療法に係る領収書（原本）
- (7)通帳等の写し

温存後生殖補助医療

- (1)助成事業参加申請書
- (2)温存後生殖補助医療実施医療機関が発行する証明書
- (3)原疾患治療実施医療機関が発行する証明書
※本県において妊娠性温存療法の申請に係る添付書類として既に提出している場合、再度の提出は不要
- (4)夫婦であることを証明できる書類
- (5)住民票の写し（原本）
- (6)温存後生殖補助医療に係る領収書（原本）
- (7)通帳等の写し

6 新潟県の指定医療機関

費用助成は、県が指定した「指定医療機関」での治療が対象となります。

医療機関名	所在地
新潟大学医歯学総合病院	新潟市中央区旭町通1番町754番地
ミアグレースクリニック新潟	新潟市中央区東万代町9-38 ロイヤルパークスER万代1階

※他の都道府県で妊娠性温存療法及び温存後生殖補助医療を受けた方は、当該都道府県の指定医療機関で治療した場合に助成の対象となります。他の都道府県の指定医療機関については、それぞれの都道府県にお問合せください。

新潟県が定める申請書類の様式は、新潟県ホームページよりダウンロードできます。

URL: <https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/kenko/0435137.html>

【書類提出先・お問い合わせ先】新潟県福祉保健部健康支援課 成人保健係

〒950-8570 新潟県新潟市中央区新光町4番地1 (TEL:025-280-5199(係直通))



新潟県がん診療連携協議会 情報連携部会
R7年度 ワーキンググループ（WG）年間活動計画

資料8-2

1. 目的

新潟県のがん相談の質向上のため、新潟県がん診療連携協議会 情報連携部会 部会員からなるWGを立ち上げ、情報連携部会で共有した共通の課題解決に向け検討を行う。

2. 方法

指定された課題について、別紙のグループ毎に検討し結果を下記スケジュールに基づき全体発表を行い結果を共有する。
なお、全体ワーキングで検討時間が足りない場合は、必要に応じグループ毎にワーキングを計画する。

3. 課題

- (1) 1 グループ：患者向け「がん相談支援センター」周知動画作成グループ
- (2) 2 グループ：更新・事例検討グループ（事例検討の成果は定期ワーキングで共有できるように計画する）
- (3) 3 グループ：ピアサポート情報収集グループ

4. グループ分け

別紙1のとおり

5. 発表／報告様式

別紙2のとおり

6. 全体ワーキング日程

	7月14日	(月)	13:30～15:30	第1回情報連携部会 本会議（Zoom会議）
2025年	7月15日	(火)	10:30～11:30	第1回ワーキンググループ（Zoom会議/計画立案）
	12月9日	(火)	15:00～16:00	第2回ワーキンググループ（Zoom会議/※結果報告）
2026年	1月下旬			第2回情報連携部会（本会議・書面開催）
	2月3日	(火)	15:00～16:00	第3回ワーキンググループ（Zoom会議/予備日）

※今年度のWGの最終報告を12/9目標とするが、間に合わない場合は翌年2月を最終報告日とする。

【第1回ワーキンググループ】

2025/7/15(火) ※以下変更後のZoom情報
○ミーティングID 818 4953 2161
○パスコード 990412
○URL <https://us06web.zoom.us/j/81849532161?pwd=WUMTHLPr1RPui8fOhjFpMyUQbFtwB8.1>

【第2回ワーキンググループ】

2025/12/9 (水)
○ミーティングID 978 3652 1890
○パスコード 138736
○URL <https://zoom.us/j/97836521890?pwd=CQEfavE0UmsO7lyaNCLXxw3ounaGnZ.1>

【第3回ワーキンググループ】

2026/2/3(火)
○ミーティングID 917 1414 7368
○パスコード 369189
○URL <https://zoom.us/j/91714147368?pwd=Oef7L8fS3xgrVOC1NGhLKtWENokRGO.1>

※Zoomミーティングは30分前から入室可能です。

※入室時氏名：グループ番号 病院名 氏名